

第 6 次草津市総合計画 第 2 期基本計画（案）

パブリックコメントの実施結果について

実施結果

- 1 実施期間 令和 6 年 1 1 月 1 日（金）から令和 6 年 1 2 月 2 日（月）まで
- 2 意見者数 3 人
- 3 意見総数 1 6 件（意見の内容および意見に対する市の考え方は別添のとおり）
- 4 意見の反映件数 0 件

周知方法

広報媒体	実績
計画案の配架	配架場所（閲覧者数） (計 2 3 人) ・企画調整課 (1 人) ・情報公開室 (0 人) ・図書館 (0 人) ・南草津図書館 (0 人) ・人権センター (0 人) ・各隣保館【4 箇所】 (2 人) ・男女共同参画センター (0 人) ・アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (0 人) ・各地域まちづくりセンター【1 4 箇所】 (2 人) ・長寿の郷ロクハ荘 (2 人) ・なごみの郷 (1 人) ・草津市社会福祉協議会 (0 人) ・クレアホール (0 人) ・総合体育館 (2 人) ・Y M I T アリーナ (1 2 人) ・インフロニア草津アクアティクスセンター (1 人)
資料送付	送付数：4 4 件 （草津市総合計画審議会委員 1 7 件、草津市総合計画策定市民会議委員 2 7 件）
個別説明	説明数：1 件（タウンミーティング） 参加者数【会場】3 5 人【オンライン】5 人 ※後日 You Tube くさつチャンネルで市長説明の様子を配信
市ホームページ	アクセス数：2 4 8 件（1 1 月 1 日～1 2 月 2 日） You Tube くさつチャンネル再生回数：1 7 1 回（1 2 月 3 日確認）
広報紙	1 1 月号
資料提供（記者提供）	1 0 月 2 8 日付け

結果公表

- ・市ホームページ 1 月 2 7 日
- ・広報紙 2 月 1 日号
- ・資料配架 1 月 2 7 日～7 月 3 1 日

配架場所：企画調整課、情報公開室、図書館、南草津図書館、人権センター、各隣保館（4 箇所）、男女共同参画センター、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ、各地域まちづくりセンター（1 4 箇所）、長寿の郷ロクハ荘、なごみの郷、草津市社会福祉協議会、クレアホール、総合体育館、Y M I T アリーナ、インフロニア草津アクアティクスセンター

提出された意見と市の考え方

No.	意見の要旨（ページ数）	市の考え方
1	（P. 4） （6）ウェルビーイングについて デジタル庁地域幸福度に対する施策と関連する主観指標を整理している点は評価できるが、市の所見から課題を把握することで実行計画につながるはずである。	第2期基本計画では、施策ごとに、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を数値化・可視化する「地域幸福度（Well-Being）指標」との関係を示すとともに、毎年度実施する施策ごとの評価において、「地域幸福度（Well-Being）指標」を総合計画の進捗を図るうえでの参考指標といたします。 御指摘のとおり、地域幸福度（Well-Being）指標のデータを活用し、本市の特徴や市民ニーズ、課題を把握して、市民のウェルビーイング向上を見据えながら、将来ビジョンの実現に向けた取組を進めることは必要であると考えております。 そのため、第2期基本計画では、施策ごとの評価において、施策の取組がどの程度、市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」につながっているか、毎年度、各所属において検討することで、市民のウェルビーイング向上にも寄与することを意識しつつ、将来ビジョンの実現に向けた取組を推進してまいります。 （総合政策部 企画調整課）
2	（P. 9～11） リーディング・プロジェクト(重点方針)について、「ときをつなぐ」に対する解説がない。草津の歴史的背景が文化財保護など施策へ結びつくはずである。	第6次草津市総合計画基本構想において定める将来ビジョン「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津」の実現にあたっては、草津市のまちづくりを先導・けん引する重点方針として位置付けておりますリーディング・プロジェクトだけではなく、すべての基本方針・施策において取組を進めることから、リーディング・プロジェクトにおいて「ひとをつなぐ」「まちをつなぐ」「ときをつなぐ」のいずれについても解説はしておりません。 （総合政策部 企画調整課）

No.	意見の要旨（ページ数）	市の考え方
3	（P. 10、P. 30～31） リーディング・プロジェクト「未来を担う子ども育成プロジェクト」、基本方針「学校の教育力の向上」について、生きる力の源泉ともいえるべき基礎学力（特に小学生の学力）が付いていない子どもが、かなり多いのではないかと危惧しており、この様な学校教育で取り残されている子どもたちに、支援施策が必要だと考える。 今、所得間格差が大きくなり、低所得層が広くなり、社会の安定度が下がって来ていると思われるが、これはこの様な学力間格差も根底にあり、これを地域から地道に何とかすることが、安全安心安定な地域社会に必要なのではないかと考える。	全ての子どもが基礎学力を身に着けることが重要であると考え、本市におきましては、家庭の理由や社会的な状況に左右されない「学びのセーフティネット」の構築の一環として「学びの教室」事業を実施しております。 この事業では、市内6会場で学習支援の場を設け、児童生徒や保護者のニーズにあわせ場所や曜日、形態を選択しながら学習できるような体制を整えております。 学校での取組とあわせ、きめ細やかな指導を行うことで基礎学力および学習習慣の定着につなげたいと考えております。 （教育委員会事務局 児童生徒支援課）
4	（P. 28～31） 基本方針「子どもの生きる力を育む教育の推進」、「学校の教育力の向上」の指標について、グローバル化の時代において国外・市外に出た際に生き抜く力を養うには指標は満足度ではなく、全国との比較評価が必要である。	基本方針「子どもの生きる力を育む教育の推進」、「学校の教育力の向上」について、計画では、現況を踏まえ課題解決のための施策として各事業を進めていきます。基本方針の指標としては、市民意識調査の満足度の割合を経年比較していきますが、それぞれの事業を推進する上では、教育振興基本計画において、全国学力・学習状況調査の結果を成果指標として用いるなど、全国との比較も含め様々な評価指標の活用をしております。 （教育委員会事務局 学校教育課）
5	（P. 28～31） スクールE S Dは現場の小学校の先生の独力があって新聞でとりあげられているところもあるが、中学校レベルではまったくない。これが草津市の中等教育の問題であり、計画にも中等教育について記述が少ない。	令和6年度より本格実施しているスクールE S Dについては、市内全ての小中学校で実践を進めています。中学校では、地元の主要産業である農業について学び、農家や行政、企業等と連携し、生徒が野菜を栽培し、その販売で得た収益を能登地震の義援金として寄付するなど、社会に貢献する実践が見られます。今後さらに地域との連携の充実を図り「社会に開かれた教育課程」の実現を目指してまいります。 （教育委員会事務局 学校教育課）

No.	意見の要旨（ページ数）	市の考え方
6	（P. 120） 基本方針「交通安全対策の推進」の「市民・地域の役割」中、「交通安全の確保を自らの課題として捉え、地域の実情に応じた交通安全や自転車安全安心利用教育を推進します。」について、市民や地域の役割として述べているにもかかわらず、「推進します」という表現は、主体が行政や団体であるような印象を与え、市民や地域が自発的に取り組む姿勢を十分に反映していないように感じられる。	交通安全は、市民の安全意識により支えられており、市民自らが交通安全に関する意識改革を進めることが重要であります。 そのためには、市民や地域が交通安全について学び、自らの課題として捉え、交通安全や自転車の安全安心な利用についての教育を、各御家庭や地域においても主体的に推進していただくことが必要であると考えておりますことから、市民・地域の役割として「推進します」としております。 （都市計画部 交通政策課）
7	（P. 162～165） ガーデンシティとは街のいたるところや都市間の間に公園やグリーンベルトが存在することである。記述内容は草津川跡地公園、公園整備にとどまっており、災害対策や環境保護とあわせた都市計画像に関する将来ビジョンの記述がない。国道やエيسクエア周辺の渋滞による空気の悪化も課題感としてとらえるべきではないだろうか。	本計画において「ガーデンシティ」とは「ガーデンシティくさつ」のことであり、市民・地域・企業等と行政の協働で、花と緑のある憩いの場をつくりだし、笑顔が行き交う都市を目指す、ガーデンニングなどを手法としたまちづくりのことを示しております。当該項目では公園・緑地の整備・管理を行い、花と緑のある憩いの場づくりを進めるという基本方針のもと記載しておりますが、災害対策や環境保護等の具体的な取組につきましては、事業実施時に検討してまいりたいと考えております。 （建設部 公園緑地課）
8	（P. 164） 基本方針「草津川跡地の空間整備」の「市民・地域の役割」中、「利用者の立場で草津川跡地の空間整備に参画します。」について、「利用者の立場で」という表現は抽象的で、どのような役割で参画するのかが具体的に伝わらない。利用者としての視点をどう活かすかを示す必要がある。	「利用者の立場」とは、市民、まちづくり協議会、町内会、民間事業者など公園を利用していただく、幅広い方々のことが含まれるよう表現しているため、具体的な利用者を特定するような表現ではなく、「利用者の立場」という表現を採用しております。 また、利用者の視点をどう活かすか、については、行政だけでなく利用者と共に、草津川跡地を市民の憩いの場や活動の場等にしていきたいと考えており、幅広い利用者の方々の視点を「草津川跡地の空間整備」に活かしていきたいと考えております。 （建設部 草津川跡地整備課）
9	（P. 164） 基本方針「草津川跡地の空間整備」の「市民・地域の役割」中、「公園運営に対し、市民活動やガーデンニング等に積極的に関わります。」について、「積極的に関わります」という表現では、市民がどのように公園運営に関わるのかが明確でない。行動の内容や目的を具体的に示すべきである。	「積極的に関わります」という表現については、市民の公園運営に対する関わりは、利用者ごとに行動や目的が異なることから、各個人の立場に応じた関わりを期待し、具体的な行動の内容や目的は示しておりません。 （建設部 草津川跡地整備課）

No.	意見の要旨（ページ数）	市の考え方
10	（P. 178～179） 基本方針「職員力の向上」において、職員のスキル向上について、スキルの詳細化ができていない。人材開発計画で詳細に検討すべきである。	総合計画は、市政の最上位計画であり、取組の大きな方向性を示すものであることから、職務の遂行に必要な具体的なスキルは示していませんが、御意見いただきましたスキルの詳細化につきましては、人材育成の推進を目的とした草津市人材育成基本方針に「目指す職員像」を掲げるとともに、職員に求められる能力などを定めております。 （総合政策部 職員課）
11	（P. 179） 基本方針「職員力の向上」の「市民・地域の役割」中、「市役所や職員に対し、積極的に意見を伝えます。」について、現状の文言では、市民が意見を伝える重要性を強調している一方で、不適切な表現や態度がカスタマーハラスメント（カスハラ）と誤解される可能性が懸念される。市民と市役所職員が互いに尊重し合いながら建設的な対話を進めるために、以下のように表現を修正することを提案する。 ○市役所や職員に対して、建設的かつ丁寧な意見を伝えます。	本市を取り巻く状況が大きく変化する中で、市民ニーズを的確に把握するとともに、持続可能な行政サービスを提供するためには、市民との積極的な対話を進めていくことが重要であると考えておりますことから、具体的な文言の修正は行いませんが、御意見にもありますとおり、カスタマーハラスメントは容認できるものではなく、市民の皆様と市役所が互いに尊重し合うことは重要だと考えておりますことから、引き続き建設的な対話を双方が実現できるよう、窓口対応等において働きかけてまいりたいと考えております。 （総合政策部 職員課）
12	（P. 180～181） D Xには窓口業務のデジタル化、市民情報開示のデジタル化の行政D Xから産業分野のD Xまでであるが、どれか。 パブリックコメントでも PoliPoli (https://polipoli-web.com) のツールを使うこともD Xである。	本市のD Xの取組につきましては、第2期基本計画ではすべての分野を下支えする視点として、「D X推進プロジェクト」を新たにリーディング・プロジェクトに位置付けており、市の取組む全ての分野でデジタル技術やデータの活用を図ることとしています。 御質問いただいております180ページ、181ページにおけるD Xにつきましては、取組内容の想定として、「行政事務の効率化と最適な行政サービスの実現」という視点で、オンライン手続きの拡大や書かない窓口の推進といったフロントヤード改革やA I・R P Aの活用などによる内部事務の効率化を想定しております。 （総合政策部 経営戦略課）
13	（P. 210～218） 用語解説について、用語の定義や解説に出典が記載されていない。公式な資料や法令に基づくものが多いため、情報の信頼性を確認できるよう、出典（例：政府の公式ウェブサイト、専門機関の報告書）を明示する必要があると考える。	用語解説については、特定の文献等に記載されているものではなく、広く一般に認知されている定義から、第2期基本計画における用語の解説を記載しており、文責は草津市にあることから、第1期基本計画でも用語解説に出典は記載しておらず、第2期基本計画においても用語解説への出典の記載はいたしません。 （総合政策部 企画調整課）

No.	意見の要旨（ページ数）	市の考え方
1 4	（全般） 各基本方針の指標について、主観的データである市民満足度調査やデジタル庁地域幸福度指数以外に、可能なかぎり客観的データを両面で評価すべきである。主観データは評価の妥当性や統計的有意水準をせず使うためにはデータの妥当性が問われるため、主観データを単独で評価するのは危険である。	各基本方針の指標（ベンチマーク）につきましては、基本方針に紐づく施策・事業に取り組んだ成果、達成状況を測るのにふさわしいアウトカム指標としており、基本方針の大部分において、主観的データである市民意識調査による基本方針の満足度を、ベンチマークとして採用しております。これは、市民意識調査において、各基本方針の主な取組を例示し、その取組の満足度について回答いただいていることから、基本方針ごとの成果を直接的に確認できる最適な指標の1つであると判断しているためです。 また、この市民意識調査につきましては、18歳以上の市民の中から3,000人を無作為に抽出し、実施しているアンケート調査であり、毎年、1,000件程度の回答をいただいております。市民の満足度等を把握するうえで、妥当なものであると考えております。 第2期基本計画においては、各基本方針にベンチマークを1つ示しておりますが、これ以外にも、毎年度実施する施策ごとの評価における成果指標や個別計画におけるKPI、また事業の進捗を測るKPI等において、必要に応じて客観指標を設定することで、客観指標と主観指標の両面から施策・事業の達成状況や課題を把握してまいりたいと考えております。 （総合政策部 企画調整課）
1 5	（全般） 草津市は琵琶湖の景観に育まれたまちであり、街道交流による商業都市と湖岸の田園集落、名神を活かし産業物流集積拠点である。草津市の特徴を反映した施策と施策が「健幸」にどう結びつくか因果関係を記載すべきである。 例えば「草津川跡地公園整備による人の交流と賑わいの活性化による街で生きる人に活力を与える」である。	第6次草津市総合計画は、「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津」を将来ビジョンとし、その実現に向けてすべての基本方針・施策・事業を推進しています。 各基本方針の概要欄には、基本方針の取組を進める目的・目指す姿を記載しておりますが、それらの達成により、健幸、即ち誰もが生きがいを持ち、健やかに幸せで暮らせるまちをともに創り上げていくことから、施策と健幸の因果関係については記載できているものと考えております。 （総合政策部 企画調整課）
1 6	（全般） 各基本方針の施策と主要事業の表について、改行がおかしい部分や、上下で1マス文字スペースが空いていて気持ち悪い。フォントサイズを変える、追いつめ、詰めるなど校正の基本をしっかりしてほしい。	体裁については、計画冊子の製本データ作成の過程において調整してまいります。 （総合政策部 企画調整課）

▼原案への反映について

パブリックコメントの実施結果による計画（案）の修正・変更はありません。

お寄せいただいた御意見は、計画に基づく具体的な取組にあたっての参考とさせていただきます。